



# 私のひとりごと

## 「流行語大賞」

今年も色々あった。竜巻や大雨による土砂災害。また火山の噴火など自然災害がとても多かったように思う。何が起るかわからない・・・何処にいても安全な場所は無くなった。また舞若道の開通で人の流れも大きく変わった。道路一本で泣く人もいれば笑う人もいる等、激動の一年だったような気がする。

私個人の話では半月板損傷の怪我をし、MRI 検査で診てもらったところ半月板が割れ四方八方に飛び散っていた。手術が必要らしいが、たまたま膝の手術をした知人の話を聞くと、回復までリハビリを含め半年かかると言う。「えっ、そんなに休めないし・・・」と腫れ上がった足を引きずりながらも、病院へ行くのをためらっていた。ちょうどNHK大河ドラマの「黒田官兵衛」のように脚を投げ出さなければ座れなかった。家内から「そんなみっともない事しとらんと、早く病院へ行って手術しなさい！」と、さんざん言われ続けて来たが最近では正座が出来るまでに回復した。「犬みたいになめて直したんか？」とイヤミを言われるが、不思議な事もあるものだ。また家族の事柄としては二人の孫に恵まれ、今は三人の孫のおじいちゃんとなったが、忙しくめったに顔を見ないせいか名前がすぐに出てこない。



さて、先日 74 歳になる従弟から、同級生がガンで入院しているのでお見舞いに行くと言われた。車で行きたいが遠方の為、私が運転することになった。病院に着くと従弟の他の同級生もお見舞いに来ていて、74 歳の同級生三人が待合室で語り合う。その光景だけでも味わい深いものがあるが、話の内容もまたしみじみと味わい深かった。ガンの人いわく「お前たちはいいよなあ・・・それなりの形があつて。歳とってから子供に迷惑かけんと思たが、またかけてしもた。わしの人生、空振りばかりや～」と、しみじみ語るその言葉が妙に心に沁みこんだ。確かに 74 歳

もなれば人生の明暗も見えてくる。されど末期ガンとも聞くその人からは暗さや気負いは感じられず、むしろ人生を生き抜く上手ささえかもし出されている。三振を繰り返した成果？かもしれない。もしかして・・・私はホームランを打つ事ばかり考えているのかもしれない・・・当たれば飛ぶが三振も多い。おそらくそのガンの人は、ホームランこそ打てなかったが真面目にコツコツと家族と共にヒットを積み重ねる努力をしたに違いない。その結果、末期ガンとなった今、奥様や子供たちが本気で心配し、寄り添ってくれているのであろう。そう考えると、私のように周りの事も顧みず、我が道を行くタイプの末路は悲惨なものと思われる。たとえホームランを打ったとしても家族にソッポを向かれればゲームセットである。家族と共に人生を歩む大切さをあらためて教えられた。そういう訳で、私にとって今年の流行語大賞は、自戒の意味も込め、「人生空振りばかりや」となった。

今年の建築業界は、消費税問題に振り回された。来年も明るい兆しはなかなか見え辛いが、その中でも辛抱強く、それこそコツコツと努力を積み重ね、厳しいこの業界を生き残る生き様を少しでもお伝え出来ればと思っている。今年も沢山の方々に支えられた事にお礼を申し上げ、一年間このコラムをお読み頂いたことに感謝申し上げます。

どうぞ、どちら様も良いお年をお迎えいただきますように。

ではまた来年もお会いしましょう。  
今年も最後まで読んでいただき・・・、

あーがしう  
ございました!!

